

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 14 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370339

研究課題名(和文) ダヌンツィオと同時代文化 二十世紀世界文学の翻訳可能性と大衆・社会・政治

研究課題名(英文) D'Annunzio and his time - International readers, society and politics

研究代表者

村松 真理子 (MURAMATSU, Mariko)

東京大学・総合文化研究科・教授

研究者番号：80262062

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：平成24-26年度基盤研究(c)「20世紀イタリア詩人ダヌンツィオのテキストと行動とメディア」を発展させた当研究は、初年度に展覧会「ダヌンツィオに夢中だった頃ー生誕150周年記念展」を東京大学と京都大学で行い、関連シンポジウム・講演会等を開催、展示の記録と研究論文集である『ダヌンツィオに夢中だった頃ー生誕150周年記念展(東京・京都2013-14)と研究の最前線』を刊行した。さらに、研究代表者は国際シンポジウム等で口頭発表し、国内外の複数の学術雑誌等に論文を掲載された。3年間の研究実績としては当初の目標を実現し、成果公開・交流として国際的にも大きな実りをあげ、学会内外から高い評価を得た。

研究成果の概要(英文)：This project was based on the previous research "D'Annunzio's text, action and media", conducted during the years 2010- 2012. In the first year an important exhibition, "D'Annunzio and his time- Memorial exhibition for 150 anniversary of his birth", was held at the museums of both the University of Tokyo and the University of Kyoto. The lectures delivered on the occasion of the international symposium and the conferences during the exhibitions were collected in a book, "D'Annunzio and his time- Memorial exhibition for 150 anniversary of his birth and the frontier of D'Annunzio studies", which became an academic guide to various fields of studies. The leader of the project has been invited at several international symposia and her contributions were already published or are in course of publication.

This project has been concluded successfully, creating a new international research network, which will allow to improve further the research, with spilling over effects beyond the academia.

研究分野：文学

キーワード：ガブリエーレ・ダヌンツィオ 20世紀イタリア文学 イタリア現代詩 20世紀イタリア史 イタリア20世紀小説 日伊文化交流史

1. 研究開始当初の背景

(1) 19世紀末から20世紀初のイタリアを代表する詩人・小説家・劇作家**ガブリエレ・ダンヌンツィオ**に関し、当研究計画代表研究者は、すでに**平成22-24年度基盤研究(C)「20世紀イタリア詩人ダンヌンツィオのテキストと行動とメディア」**(課題番号22520297)として研究を進め、作家研究の成果を論文やシンポジウム等での発表にまとめた。それを通じ、詩人の評価に関し、各国での個々の作品の受容や作家本人の個人的な軌跡と作家像を追う中で、従来の文学テキスト研究や、メディア論的観点からだけではとらえがたいことが明らかになった。

(2) この作家の「**テキストと行動**」は、ジャンルと国境を縦断する。**新聞雑誌や劇場から映画や広場まで、様々な媒体と「場」**を介し、徐々に**サブカルチャー**的な地平をも内包していくことになり、**グローバルな20世紀的大衆文化の先駆**として**統合的な表現**とも言うべきものである。そこで、**現代的メディアと国際的なサブカルチャーの萌芽**を生み出し発展させたこの作家の作品がどのように読まれ、彼自身の行動と彼の作った「作家像」がどのような反響をひきおこしていたのかを、国際的に共通する文化のコンテキストの中で捉えることを、より方法論的・意識的に試みる必要がある。

2. 研究の目的

(1) **ガブリエレ・ダンヌンツィオ**の作品の与えた20世紀文学への影響を、イタリア語圏に限らず、**翻訳文学**としての重要性に着目して再評価する。さらに**現代的メディアと国際的なサブカルチャー**の誕生と発展の中で、作家自身の一見特異な言説や行動の作り出したイメージとしての「**作家像**」が、欧米と日本でどのように受容されたかを比較研究し、国際的大衆文化の一つのモデルをつくったことを明らかにする。

(2) 第2次世界大戦直後の視点からではなく、**1920年代から30年代の作家のことはと作家像としての行動の同時代文脈における社会性と政治性**を検証する。

3. 研究の方法

(1) 初年度においては上記のすでに終了した基盤研究の成果を発展させながら、**装丁にも作家が深く関わったヴィジュアルな原語の初版本や日本語訳のエディション**だけでなく、**総合的な価値観と審美感の表現としての調度品や服飾品、メディアへの感性や風物への関心を示す工芸品や実際の物の写真や書籍**にも注意をはらい、日本における受容と影響を示す当時の**新聞記事**などの資料等とあわせて調査・研究し、さらにそれを成果公表の展覧会に展示することで、文学に限られない、**社会と主体的に関わる、翻訳可能でマルチメディア的な作家像**を研究し、呈示

することを試みた。(2) さらに作品の**翻訳文学としての重要性**に着目し、**翻訳作品と、他言語の同時代文学との間テキストな関連**について、**世界文学史的な再評価を試みる**と同時に、従来の「文学」という分野を越えるこの作家の文化人としての政治的な活動や言動の受容と反響、影響について、ヨーロッパと日本を比較検証し、新たなテキスト、作家、社会、歴史の関係をめぐる新たな研究の方法論の構築を目指す。

4. 研究成果

当研究はその成果を活字媒体の刊行物とともに、展覧会やシンポジウムの形でも公開し、**研究対象のメディア性にふさわしい複合的な成果発表**を目指した。

(1) ダンヌンツィオ生誕150周年展覧会の開催

研究代表者は2013年、イタリアで結成された「**ダンヌンツィオ生誕150周年の記念行事国際学術準備委員会**」に加わり、またその一環として2013年10月19日から12月13日まで東京大学駒場博物館において、イタリアおよび日本国内から出陳された展示品と研究成果を発表する**特別展「ダンヌンツィオに夢中だった頃 カプリエーレ・ダンヌンツィオ(1863-1938) 生誕150周年記念展**」を開催した。さらに京都大学人文科学研究所、京都産業大学等をはじめとする関西の研究拠点に所属する研究者と協力して、京都大学総合博物館での京都展も2014年1月22日から3月9日まで開催した。駒場展・京都展ともに、国内外の一線の研究者たちによる講演会、シンポジウム、ギャラリートーク等、関連行事を多数行い、**関連分野の研究成果のパノラマを、学会のみだけでなく、地域や一般市民に「展覧会」というメディアを軸に発信した**ことは意義深く、日本およびイタリアの多くの新聞やネット上の媒体でも取り上げられた。ダンヌンツィオという多様な切り口の可能な作家を対象とした当研究は、従来からのイタリア文学研究者だけでなく、フランス文化、日本文学、比較文化、メディア論、20世紀思想文化史等の分野に属して関連領域との関わりから**ダンヌンツィオを対象にする異分野の専門家たちの学術的な交流の場**を作りだした。大学博物館という場で展覧会というメディアを生かし、大学院生、若手研究者たちが研究会を発足し、一連の行事の実現に協力する体制を作り、**教育効果も大きかった**。2つの展覧会の成果は冊子2冊にまとめられ、ダンヌンツィオ研究の今後につながるものとなった。

(2) 国際的な研究交流と成果発表

研究代表者は上記の150周年の2013年は年間を通して、イタリアの研究機関や文化団

体と連携し、**国際シンポジウムへの参加や広報を積極的に行い、イタリア語の刊行物に成果を発表し、20世紀ヨーロッパ文化研究のジャンル融合的な発展と国際的可能性を示した。**

翌年は展覧会の成果から、特に日本文学におけるダンヌンツィオ文学の影響と関わりとしてまとめ、「伊日研究学会(AISTUGIA)」年次大会開会講演として発表した。前年の展覧会について強い興味が寄せられ、イタリアの日本文化・歴史・文学を対象とする研究者が一堂に集う同学会でこの招待講演の機会を得たが、国際的視野やヨーロッパにおけるアジア研究の視点から、多くの意見や感想が述べられ、有意義な研究交流となった。2014年は第一次世界大戦開戦から100年の節目であったことから、イタリアに限らず特にヨーロッパにおいて、社会史・文化史研究の視点から多くの国際的なシンポジウム等が行われ、新たな見直しや再評価が試みられた。メディア論と言語芸術論において、**ダンヌンツィオという作家の先駆性・政治性・国際性が改めて注目される中、当該研究課題の分野横断的日本文学研究の試みへの評価とその意義が、国際的にも確認された。**

(3) 記念論集の刊行と研究者縦断的コミュニティ・ネットワークの構築

2013年から2014年にかけて東京大学および京都大学の大学博物館で開催した**展覧会・シンポジウムでの研究成果を、その記録および最新のダンヌンツィオ研究の到達点を紹介する研究論文集として編集作業を行い、2015年に刊行した。**展覧会の会期にあわせて行ったシンポジウムや特別授業、ギャラリートーク等に多くの研究者の協力を得たが、論集には展覧会の共催者でダンヌンツィオ研究の国際的中心拠点「ヴィットリアーレ財団」グエッリ財団長はじめ、第一線の多くの研究者の寄稿を得た。日本のダンヌンツィオ研究、イタリア近現代文学の研究結果だけでなく、ヨーロッパの芸術文化や同時代日本文学に渡る広い分野の気鋭の研究者が、ダンヌンツィオをめぐって近年の研究結果をまとめる大変意義深いものとなった。

最終年度はさらに、ダンヌンツィオ受容史に加え、大衆的読者やメディアを意識したその社会性・政治性に関する研究に発展させるべく、当研究のまとめと発展としての調査を行った。今後、**ダンヌンツィオの作家像と詩的言語の独創性が、大衆性をもつコミュニケーションの枠に開かれるときにどう変質するのかを中心的な課題とする新たな研究として深化させたい。**具体的には、近年の評伝研究などの先行研究を参照しつつ、未刊行資料の調査等により私信等の私的な言葉に見出される「リアリズム」と、公的な場における演説や公刊テキストの「レトリック」との比較を

行い、**ダンヌンツィオ的な表現やイメージが定型化されていく戦時下からファシズム期のコミュニケーションの文体や言語使用の問題を**考えたい。すでに作家の1910年代の散文テキスト分析と、アーカイブでの自筆書簡の調査を行い、今後の研究方針についてイタリアの専門家たちと意見交換を行った。

3年間の研究実績としては当初の目標に達することができ、**研究公開・交流としては国内的にも国際的にも大きな実り**をあげ、学会内外で高い評価を得た。今後さらに、文学テキストと20世紀の政治的状況や文化・社会現象の関係により視野を広げた研究に展開し、**ダンヌンツィオという一人の詩人に関する作家研究から、文学テキスト・言語と20世紀の大衆的コミュニケーションの成立との関わりを対象とする研究に発展的に進める見直し**とその調査の基礎を最終年度に築くことができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

Mariko Muramatsu, *Amore dannunziano nella letteratura giapponese. da Ikuta Choko a Mishima Yukio*, in Collana di Studi Giapponesi, 2016 (査読あり、印刷中)。

Mariko Muramatsu, *D' Annunzio in Giappone* (「日本におけるダンヌンツィオ」) in *L' Officina del Vittoriale. Gabriele d' Annunzio 150 " Vivo, scrivo"*. Atti del convegno internazionale di studi, Silvana Editoriale, 2014, pp.183-191 (査読なし)。

[学会発表](計6件)

Mariko Muramatsu, *L' amore dannunziano nella letteratura giapponese- da Ikuta Choko a Mishima Yukio* (日本文学におけるダンヌンツィオ的恋愛 生田長江から三島由紀夫まで), 第38回伊日研究学会(招待講演), Associazione Italiana per gli Studi Giapponesi (AISTUGIA), 2014年9月18日, University of Salento, レツェ(イタリア)。

村松真理子, 「ダンヌンツィオ 人生・テキスト・世界」, 京都大学総合博物館特別展記念連続講演会(招待講演), 2014年1月26日, 京都大学総合博物館(京都府京都市)。

村松真理子, 「ダンヌンツィオに夢中だった頃」, イタリア研究会例会(招待講演), 2013年12月20日, 上野文化会館(東京都台東区)。

村松真理子、「ダンヌンツィオに夢中だった頃 国際詩人の軌跡とMishimaが交わるとき」、東京大学駒場博物館「ダンヌンツィオに夢中だった頃 カプリエーレ・ダンヌンツィオ(1863- 1938)生誕150周年記念展」記念国際シンポジウム(企画と司会),2013年11月2日, 東京大学 (東京都目黒区).

Mariko Muramatsu, *D' Annunzio innovatore dei costumi e della lingua* (「スタイルと言語の革新者としてのダンヌンツィオ」), イタリア外務省・クルスカ学会主催第13回世界イタリア語週間「イタリア- 研究、発展と革新」での招待講演, 2013年11月10日, イタリア文化会館(東京都千代田区).

Mariko Muramatsu, *D' Annunzio aspettato in Giappone*(「日本で待望されていたダンヌンツィオ」), Circolo degli Inquieti文化財団主催シンポジウム “Festa dell' inquietudine” での招待講演, 2013年6月1日, フィナレリーグレ市文化ホール, フィナレリーグレ(イタリア).

〔図書〕(計3件)

村松真理子, 『謎と暗号で解くダンテ「神曲」』, 2013, 251頁, 角川書店.

Mariko Muramatsu, *Il raid Roma- Tokyo* 「ローマ-東京連続飛行」), in *Gabriele D' Annunzio aviator*(「飛行士ダンヌンツィオ」), edited by Neva Capra, Luca Gabrielli, Giordano Bruno Guerri, Perugia, Valsugrana 2014 pp.130-133.

村松真理子(執筆・翻訳・監修), 『ダンヌンツィオに夢中だった頃-生誕150周年記念展(東京・京都2013- 14)と研究の最前線』(イタリア地中海研究叢書1), 東京, 東京大学教養学部イタリア地中海コース, 2015, 336頁.

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:

取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等

村松真理子(監修), 『ダンヌンツィオに夢中だった頃-ガプリエーレ・ダンヌンツィオ生誕150周年記念展』, 東京大学教養学部駒場博物館特別展・関連企画(2013年10月19日-12月13日開催)および『生誕150周年記念展「ダンヌンツィオに夢中だった頃」-ガプリエーレ・ダンヌンツィオ(1863-1938)』, 京都大学総合博物館特別展(2014年1月22日-3月9日開催)特別展.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

村松真理子 (MURAMATSU, Mariko)
東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号: 80262062

(2) 研究分担者

なし()
研究者番号:

(3) 連携研究者

なし()
研究者番号: